

正課体育の在り方に関する調査研究

2. 短期大学におけるテニスの授業研究

芹 沢 幹 雄 ・ 中 野 美恵子*

A Study of How the Physical Education Class should be
2. A Study of Tennis Class in Junior Colleges in Shizuoka

Mikio SERIZAWA and Mieko NAKANO

ABSTRACT

We gave a questionnaire to 90 first-year female students at Junior Colleges in Shizuoka in September, 1999 as to whether they played tennis in class at junior and senior high schools, how the class was conducted if they did, the way tennis class is currently taught at college, and their comparative evaluation of the two classes. The results are as follows.

- (1) The supply of tennis rackets was significantly higher at junior and senior high schools in Shizuoka Prefecture than those in other prefectures.
Significantly more tennis classes required their participants to put the tennis courts back to good condition after class in Shizuoka Prefecture as compared with other prefectures.
- (2) As for tennis class at junior and senior high schools, respondents expressed their views as to instructors' coaching level, the practice of looking after the courts after class, the limited availability of rackets, and the importance of coaches.
- (3) Favorable was respondents' over-all evaluation of tennis class at college.
- (4) Respondents pointed out the importance of communication between the instructor and his or her students, and the need for the instructor to conduct tennis class by putting him-or herself in their place.

I. はじめに

我々は第一報¹⁾で主にテニスの授業環境と満足感の関連について報告した。また、コート整備に関連して教育的見地より、コートをいたわる指導の必要性および授業用ラケットに関して、出来るだけ受講者の性差、体格差に応じた多様性のある用具の準備の必要性を指摘し^{2) 3) 4)}、さらに、授業用ボールに関してノンプレッシャーボールの

有効活用⁵⁾や、コートサーフェスに応じたテニスシューズ選択の重要性⁶⁾などについて論じた。今回は対象を将来の静岡県の各分野で中堅を担うべき公立及び私立の短期大学生に絞り、彼等の大学入学以前のテニス体験や授業内容等について県内、県外出身者の比較を交えて検討した。

また、現在大学において受講しているテニス授業の内容に関しても公立、私立別に比較検討した結果、若干の知見を得たのでここに報告する。

* 静岡大学 Shizuoka University

Ⅱ. 調査方法

1. 調査対象

調査対象は静岡県内の短期大学又は短期大学部に在籍しテニスの授業を受講している1年生女子90名である。内訳は公立短期大学生が74名(82.2%)、私立短期大学生が16名(17.8%)であった。また、静岡県内出身者は66名(73.3%)、県外者は24名(26.7%)であった。

2. 調査時期および方法

調査は平成11年9月に質問紙法によるアンケート調査をおこなった。調査はより正確な回答を期して無記名とした。また、回収の徹底をはかるために授業中に実施したので回収率はほぼ100%であった。

3. 調査項目

調査項目は大学種別と静岡県内、県外出身別の他、以下の通りである。なお、巻末にアンケート用紙を添付した。

まず設問1では大学入学以前のテニス体験の有無について尋ね、設問2の(1)では設問1で「ある」と答えた者に体験時期と形態について聞いた。すなわち主には高校までの授業(学校体育)におけるテニス受講体験の時期と種目(硬式、ソフトテニス別)およびその形態(授業、部活別)、さらに高校の授業についてはその形態(選択、必修別)について聞いた。

設問2の(2)では高校までの学校体育の内容について尋ねた。具体的な項目としては①体育教師の技術指導の程度、②技術レベルの到達度、③テニスコート整備状況、④テニス用具(ラケット、ボール)の充足状況等である。

設問3では大学における体育授業について質問した。具体的には①テニスに対する意識、②教師の技術指導の程度、③教師の技術指導以外の要素(ウォームアップ方法、講義的内容等)についての満足度、③' ③で満足度が低いと答えた者の具体的な要望事項、④教師の説明に対する理解度、④' ④で教師の説明でわかりにくかった具体例、⑤授業集団の雰囲気、⑥授業における技術到達度、

⑦授業全体に対する評価である。

最後の設問4では、高校までの授業および大学の授業について感じた点、良かった点、改善すべき点などについて自由に記述してもらった。

4. 解析と比較の方法

調査データの統計的な処理はSPSS第8版⁷⁾を用い、比率の差に関する検定には χ^2 検定⁸⁾を用いた。

Ⅲ. 調査結果

設問1. 大学入学以前のテニス体験(表1)については、全体では「ある」と答えた者は64.4%(58名)、「ない」と答えた者は35.6%(32名)を占めた。これを県内、県外出身者別にみると県内出身者の59.1%(39名)、県外出身者の79.2%(19名)がともに大学入学以前にテニスを体験していると回答しており、県外出身者の体験率が県内出身者を上回ったが有意差はみられなかった。

設問2. (1) 設問1で大学入学以前のテニス体験が「ある」と答えた者にその時期(中学、高校別等)とテニスの種別(硬式、ソフトテニス別)およびその形態(授業、部活別)を聞いた。さらに高校の授業でテニスを体験した者全員にその形態(選択、必修の別)について尋ねた。

初めてテニスを体験した機会(表2)で最も多かったのは「高校の時」で53.5%、次いで「中学」が44.8%となっており、両者でほぼ全体を占めた。あと「民間テニスクラブ」と答えた者もわずか1名(1.7%)だけがいた。

次に初めて体験したテニスの種別(表3)を聞くと、「ソフトテニス」が最も多く62.1%、「硬式テニス」が34.5%でこれに次ぎ、「硬式テニスとソフトテニスの両方」と答えた者も3.4%いた。

さらに、初めて体験したテニスの形態(表4)に関する問いでは「授業」が77.6%と断然多く、次いで「部活動」が17.2%、「授業と部活動」が3.5%、「民間テニスクラブ」が1.7%であった。

高校時に体験したテニス授業についてその形態(表5)を尋ねると、「選択」が60.4%、「必修」が39.6%であった。

設問 2. (2) ここでは高校までの学校体育の内容について尋ねた。初めに、授業における体育教師の技術指導の程度を表 6 に示す。

全体では「簡単な説明程度」42.6%、「ざっと一通り」25.9%、「フリーに遊んでいた」24.1%、「かなり丁寧に」7.4%の順であった。技術指導の程度を県内、県外の分類でみると、「簡単な説明程度」は県内41.7%、県外44.4%で大差なく、「かなり丁寧に」も県内8.3%、県外5.6%で大差なかった。しかし「ざっと一通り」が県内19.4%、県外38.7%であったことと、「フリーに遊んでいた」と答えた者が県外11.1%に対し県内は30.6%と県内出身者の方に多くみられたことは、県内の授業に比べ県外の授業の方が技術指導がやや充実していることを示唆している。

高校までの授業で最後はゲームを楽しむところまで到達したか否か(表 7)を問うと、全体では「はい十分に」17.9%、「ほぼ楽しめた」33.9%、「まあまあ」21.4%を合わせた肯定派が73.2%、これに対して「あまり楽しむまでいかない」19.7%と「楽しくなかった」7.1%を合わせた否定派は26.8%であった。これを県内、県外別にみると県内では肯定派が71%、否定派は29%であるのに対して県外者では肯定派が77.8%、否定派は22.2%であって両者の傾向に大差はなかった。

高校までの授業におけるテニスコートの種別(表 8)を聞くと、全体ではクレートコートが77.9%と 8 割弱で最も多く、次いでハードコートの 9.3%、以下クレートとオムニサンド5.8%、クレートとハード5.8%、オムニサンド1.2%となっていた。県内、県外別にみるといずれもクレートコートが 8 割近くを占めハードコートに関しては県内10.9%が県外4.6%よりもやや多く、クレートとハードが県内3.1%に対して県外が13.6%と若干高い値を示したものの全体的には大差なかった。

授業終了後のコート整備(表 9)は全体的には「毎回やった」44.6%と「時々やった」14.3%を合わせて約 6 割が実施しており、約 4 割は実施していなかった。県内、県外別にみると県内では「毎回やった」52.6%、「時々やった」10.5%、「やらなかった」36.9%、県外では「毎回やった」27.8%、「時々やった」22.2%、「やらなかった」

50.0%と県内の実施率が有意に上回った。
($p<0.05$)

次に、用具の充足状況(表10、表11)をみるとラケットが「全員分用意されていた」とする者が県内92.1%、県外72.2%で県内出身者における充足率が有意に($p<0.05$)上回った。ボールが「十分あった」とする者は県内79.0%、県外72.2%と差はなかった。

設問 3. 以下は、大学におけるテニスの授業に関する調査結果について述べる。

テニスというスポーツに対する印象(表13、表14)を尋ねたところ、全体では「楽しそうなスポーツである」と答えた者は78.9%であり、「難しそうなスポーツだと思った」者は85.6%であった。すなわち大半の学生がテニスは難しいスポーツであることを認めながら、楽しそうなスポーツであるという認識を示した。これを大学種別にみると、「楽しそうなスポーツである」と答えた者は公立77.0%、私立87.5%であり、テニスは「難しそうなスポーツだと思った」者は、公立82.4%、私立100%でいずれも私立が上回った。すなわちテニスは難しいスポーツでありながら楽しいという認識は私立においてより顕著になった。

テニスの授業でのボールコントロール(表15)が思うように「できた」と「まあまあ」を合わせた肯定的な回答は22.7%、逆に「あまりできない」と「まだできない」を合わせた否定的な回答は52.3%と肯定派を大きく上回った。ここにも硬式テニスの技術のマスターの困難さが垣間見える。これを大学種別にみると肯定的な回答は公立で23.6%、私立で18.7%と公立がやや上回り、否定的な回答は公立で48.6%、私立で68.8%と私立短大で多くみられた。

大学の授業における技術指導の程度(表16)を尋ねたところ、「丁寧だ」、「ほぼ一通り」、「この位が妥当」という肯定的回答が86.7%、逆に「もう少し丁寧がよい」、「もっと教えて欲しい」という否定的回答が13.3%であり、おおむねその技術指導に対する一定の評価が得られた。これを大学種別にみると肯定的回答が公立で83.8%、私立では100%を占め、否定的回答は公立で16.2%であり、私立短大の技術指導に関する優位性がみられ

た。

次に、授業における技術指導以外（ウォームアップ方法や講義的内容等）の満足度（表17）を尋ねたところ、「満足」と「ほぼ満足」を合わせて肯定的に回答した者が、61.4%、普通が36.3%、やや不満も2.3%いた。これを大学種別にみると肯定的に回答した者が公立で61.1%、私立で62.5%とほぼ同率であった。

授業における教師の説明の理解度（表18）については、「わかりやすい」、「ほぼ理解できた」、「この位だろう」を合わせた肯定的な回答が88.8%、逆に「ややわかりにくい」と「わからなかった」を合わせた否定的な回答は11.2%であった。これを大学種別にみると肯定的な回答が公立で86.5%、私立で100%を示し、逆に否定的な回答は公立のみ13.5%と、私立の方がやや優っていた。

授業集団の雰囲気（表19）については、全体的には「馴染みやすかった」51.1%と「この位だろう」44.5%を合わせた95.6%が肯定的にとらえ、「あまり楽しくなかった」と否定的にとらえた者は4.4%であった。これを大学種別にみると肯定的な回答は公立で97.3%、私立で87.5%、否定的な回答は公立で2.7%、私立12.5%と公立の方にやや優位性がみられた。

技術到達レベルの自己評価（表20）では「上達した」と「人並みに上達した」を合わせた肯定的評価は65.6%、「あまり上達しなかった」と「上手くなれなかった」を合わせた否定的評価は34.4%であった。これを大学種別でみると肯定的評価は公立69.9%、私立43.7%、否定的評価は公立29.8%、私立56.3%であり、公立における優位性がみられた。

授業の全体評価（表21）としては「受講して良かった」と「この位だろう」を合わせた肯定的評価は98.9%とほぼ全員が授業の価値を認めていた。これを大学種別でみると肯定的評価は公立98.7%、私立100%と両者に差はなかった。

Ⅳ. 考察

高校までのテニスの授業についてまず全体的にみることにする。我々は前報¹⁾で技術指導の程度と満足感について、指導の程度に応じて満足感が変わることを指摘した。すなわち、「かなり丁寧に」指導を受けた者では87.5%、「ざっと一通り」指導を受けた者では65.3%、「グリップの握り程度の」指導を受けた者では47.7%と満足感が減少し、三者間に有意差が見られた。これからみると今回の高校における調査の現状（「簡単な説明程度」42.6%、「ざっと一通り」25.9%、「フリーに遊んでいた」24.1%、「かなり丁寧に」7.4%）はあまり好ましい結果とは言い難い。特に「フリーに遊んでいた」生徒が24.1%いたことについては改善が望まれる。しかし、最後はゲームを楽しむところまでできたかの問いに73.2%が肯定的に回答しており、ある一定の評価は得ていることがわかる。

授業後のコート整備については、「時々」と「毎回」を合わせてブラシ掛けを「やった」者が約6割、「やらなかった」者が約4割で前報¹⁾とほぼ同率であった。この点については前報¹⁾で授業終了後に「何もしなかった」者より「ブラシをかけた」者に授業に満足している者が有意に多いという興味深い結果を指摘したが、やはり自分たちの学習の場を自ら整備することは教育的側面からも意味のあることで是非実施させたいものである。

用具の充足状況は、ラケットが「全員分あった」とする者が85.7%、ボールが「十分あった」とする者が76.8%であり、前報¹⁾のラケット80%、ボール72%を上回った。しかし、逆に言えばラケットが「不足している」と回答した者が14.3%、ボールが「不足している」と回答した者が23.2%いたわけでこれらに対してはさらに改善を求めたい。

次に高校までの授業に関して県内出身者と県外出身者による比較をみると、有意差がみられた項目は用具（ラケット）の充足率、授業後のコート整備実施率であり、県内が県外よりも優れていた。それ以外の大学入学以前のテニス体験率、技術指導の程度、授業の到達度、コートサーフェスはク

レーが主であることなどは県内外で有意差はみられなかった。

ここで注目されるのは県内における用具（ラケット）の充足率は県外よりも充実してはいるが、技術指導の程度が県外よりもやや下回っている点である。これについて考えられるのは中学、高等学校における指導者の問題である。指導者の絶対数の不足もしくは指導者が必ずしもテニスの専門家ばかりではないという可能性が考えられる。周知のごとくテニスは老若男女が生涯にわたって楽しめるスポーツとしてたいへん適しており、その導入にあたっては適切な指導が特に大切になる。従ってできるだけテニスの専門家による指導が望まれるが、もしそれが難しい場合でも担当者が研修によりその指導力を向上させることは可能であろう。また、指導者の絶対数不足が現実にあるのなら出来るだけ速やかな改善が望まれる。

大学の授業においては全体的にみて、技術指導の程度、教師の説明に対する理解度、授業集団の雰囲気等で学生による一定の評価を得ていた。一方で、ボールのコントロールが思うようにできなかったと答えた者が52.3%みられたことや、技術到達レベルの自己評価であまり上達しなかったと答えた者が34.4%いたことなど、各項目別ではいくつかの否定的な指摘も見られた。しかし、授業の全体評価では幸いにもほぼ全員の学生が「受講して良かった」「この位だろう」と肯定的な評価を与えていることは注目に値する。

公立と私立という大学種別の分析に関しては対象者の絶対数の不足、種別対象者数比率の偏りなどの問題点があることを前提としながらもその傾向を探ってみることにする。公立の受講者においては私立よりもテニスの経験者が多く、従ってボールコントロールの点でも技術到達レベルの自己評価の点でも私立よりも優れており、授業集団の雰囲気も良かった。これに対して私立においてはテニスを楽しみやすいスポーツであるにとらえた点、教師の技術指導に対する評価及び教師の説明に対する理解度で公立よりも優れていた。これらは指導者の個人的な資質によるところも大きくまた授業受講者数と使用コート数や一面あたりの受講者数などの要素も無視できない。これらとの関連につい

ても今後の検討を要するところであろう。なお、ウォームアップ方法や講義的内容等技術指導以外の内容についての満足度は公立と私立で差はなかった。

テニスの技術指導以外の要素の満足度が低いと答えた者にその具体例を問うたところ、「もう少しルールを詳しく教えてもらいたかった。」、「もう少しルールについて説明して欲しかった。」、「ルールを知りたかった。」、「もう少しルールをしっかり教えて欲しい。ゲームもルールがよくわからないままやっつけてしまっている。」、「ルールがよくわからなかった。」というルール関連が最も多く5例あった。今回の調査対象の短大の授業は前期14回のうち教室での講義が1回、雨天により体育館でバドミントン、バレーボール、卓球などテニス以外の種目を実施したのが3回あり、実際にテニスできたのは10回であった。そのうち基礎練習に5回、あとルールの説明なども含めて5回をゲーム（試合）に充てた。このアンケートは2回目のゲームを行った日に実施した。

筆者はテニスの授業を実施するにあたって、学生になるべく早めにゲームを経験させ、ゲーム練習を通して楽しみながらルールや技術を学ばせようと心がけているつもりであるが、その辺の意図が学生に必ずしも伝わっていない感がある。今後は拙速を戒めると共に学生とのコミュニケーションを密にする必要性を痛感した。

また、「テニスコートがもっと多いといいなと思った。」という指摘も1例だけがあった。このクラスでは4面のコートを56名の学生が使用するため、1面あたり14名の学生が割り当てられることになる。ゲームを考えた場合全員が1回試合をするのに4ラウンド必要になる計算であり、こういう感想も無理もないところである。

授業の際、教師の説明がわかりにくかったと回答した者にその具体例を聞いた。最も多かったのは「ルールがわからない」が6例、次いで「専門用語がわからない」が5例であった。これは教師サイドでは常識と考えてしまいがちなルールや、専門用語が学生にとっては初めて聞く規則、用語であることも多く、その点を再認識して学生の立場に立った指導を考えるべきであろう。

V. まとめ

高校までの授業を県内と県外で比較した場合、用具（ラケット）の充足率、授業後のコート整備実施率では県内が県外を有意に上回っていたがそれ以外の大学入学以前のテニス体験率、技術指導の程度、授業の到達度、コートサーフェスはクレーが主であることなどは県内外で有意差はみられなかった。

高校までの授業に関して、技術指導の程度、授業後のコート整備、用具不足について改善の必要性を指摘し、指導者の重要性についても論じた。

大学の授業では全体的にみて、技術指導の程度、教師の説明に対する理解度、授業集団の雰囲気で一定の評価を得る一方で、ボールコントロール、技術到達レベルの自己評価で否定的な指摘もみられたが全体評価では肯定的な評価を得た。

大学の授業における学生とのコミュニケーションの重要性及び学生の立場に立った指導の必要性を指摘した。

今回の調査では対象者の絶対数の不足のほか、県内、県外出身者の比率および公立、私立在籍者の比率の偏りなどいくつかの問題点を残した。こうした点を改善した上で四年制大学においても同様の調査を行い研究を進めていきたい。

本研究は平成11年度静岡県立大学特別研究費による補助を得て行われた。

文献

- 1) 芹沢幹雄・中野美恵子 (1999): 「学校体育の在り方に関する調査研究1. テニスの授業環境と満足感を中心として」『経営と情報』静岡県立大学経営情報学部学報第11巻第2号.
- 2) 芹沢幹雄他 (1993): 「握力と摘力に関する研究1. 摘力の分析に関する予備的な研究」、教育医学第38巻第4号.
- 3) 芹沢幹雄他 (1994): 「握力と摘力に関する研究2. 摘力の分析に関する研究」、教育医学第39巻第4号.
- 4) 芹沢幹雄他 (1995): 「握力と摘力に関する研究3. テニス部員とサッカー部員の握力および摘力の比較」、『経営と情報』静岡県立大学経営情報学部学報第8巻第1号.
- 5) 中野美恵子・芹沢幹雄 (1998): 『テニスリーダー』、黒船印刷株式会社.
- 6) 小山秀哉 (1992): 『基本を学ぶために⑩楽しいテニス』、ベースボール・マガジン社.
- 7) 内田治 (1997): 『すぐわかる SPSS によるアンケートの調査・集計・解析』、東京図書株式会社.
- 8) 岩原信九郎 (1988): 『推計学による新教育統計法』、日本文化科学社.

表1 大学入学以前のテニス体験の有無

| テニス体験 | 県内 | 県外 | 全体 |
|-------|------------|------------|------------|
| ある | 39 (59.1) | 19 (79.2) | 58 (64.4) |
| ない | 27 (40.9) | 5 (20.8) | 32 (35.6) |
| 合計 | 66 (100.0) | 24 (100.0) | 90 (100.0) |

表2 初めてテニスを体験した機会

| 中学 | 26 (44.8) |
|----------|------------|
| 高校 | 31 (53.5) |
| 民間テニスクラブ | 1 (1.7) |
| 合計 | 58 (100.0) |

表3 初めて体験したテニスの種別

| 硬式テニス | 20 (34.5) |
|--------------|------------|
| ソフトテニス | 36 (62.1) |
| 硬式テニスとソフトテニス | 2 (3.4) |
| 合計 | 58 (100.0) |

表4 初めて体験したテニスの形態

| 授業 | 45 (77.6) |
|----------|------------|
| 部活動 | 10 (17.2) |
| 授業と部活動 | 2 (3.5) |
| 民間テニスクラブ | 1 (1.7) |
| 合計 | 58 (100.0) |

表5 高校時に体験したテニス授業の形態

| 選択 | 29 (60.4) |
|----|------------|
| 必修 | 19 (39.6) |
| 合計 | 48 (100.0) |

表6 高校までの授業における技術指導の程度

| 指導の程度 | 県内 | 県外 | 全体 |
|-----------|------------|------------|------------|
| かなり丁寧に | 3 (8.3) | 1 (5.6) | 4 (7.4) |
| ざっと一通り | 7 (19.4) | 7 (38.7) | 14 (25.9) |
| 簡単な説明程度 | 15 (41.7) | 8 (44.4) | 23 (42.6) |
| フリーに遊んでいた | 11 (30.6) | 2 (11.1) | 13 (24.1) |
| 合計 | 36 (100.0) | 18 (100.0) | 54 (100.0) |

表7 最後はゲームを楽しむところまでできましたか

| ゲームを楽しめたか | 県内 | 県外 | 全体 |
|--------------|------------|------------|------------|
| はい十分に | 7 (18.4) | 3 (16.7) | 10 (17.9) |
| ほぼ楽しめた | 12 (31.6) | 7 (38.9) | 19 (33.9) |
| まあまあ | 8 (21.0) | 4 (22.2) | 12 (21.4) |
| あまり楽しむまでいかない | 9 (23.7) | 2 (11.1) | 11 (19.7) |
| 楽しくなかった | 2 (5.3) | 2 (11.1) | 4 (7.1) |
| 合計 | 38 (100.0) | 18 (100.0) | 56 (100.0) |

表8 高校の授業におけるテニスコートの種類

| コートサーフェス | 県内 | 県外 | 全体 |
|-------------|------------|------------|------------|
| クレートコート | 50 (78.1) | 17 (77.2) | 67 (77.9) |
| ハードコート | 7 (10.9) | 1 (4.6) | 8 (9.3) |
| オムニサンドコート | 1 (1.6) | | 1 (1.2) |
| クレートとオムニサンド | 4 (6.3) | 1 (4.6) | 5 (5.8) |
| クレートとハード | 2 (3.1) | 3 (13.6) | 5 (5.8) |
| 合計 | 64 (100.0) | 22 (100.0) | 86 (100.0) |

表9 授業後のコート整備

| コート整備 | 県内 | 県外 | 全体 |
|--------|------------|------------|------------|
| 毎回やった | 20 (52.6) | 5 (27.8) | 25 (44.6) |
| 時々やった | 4 (10.5) | 4 (22.2) | 8 (14.3) |
| やらなかった | 14 (36.9) | 9 (50.0) | 23 (41.1) |
| 合計 | 38 (100.0) | 18 (100.0) | 56 (100.0) |

(df=2;p<0.05)

表10 ラケットの充足状況

| ラケット | 県内 | 県外 | 全体 |
|---------|------------|------------|------------|
| 全員分あった | 35 (92.1) | 13 (72.2) | 48 (85.7) |
| 二人に一本程度 | 1 (2.6) | 2 (11.1) | 3 (5.4) |
| その他 | 2 (5.3) | 3 (16.7) | 5 (8.9) |
| 合計 | 38 (100.0) | 18 (100.0) | 56 (100.0) |

(df=1;p<0.05)

表11 ボールの充足状況

| ボール | 県内 | 県外 | 全体 |
|---------|------------|------------|------------|
| 充分 | 30 (79.0) | 13 (72.2) | 43 (76.8) |
| やや少なかった | 7 (18.4) | 4 (22.2) | 11 (19.6) |
| 少なかった | 1 (2.6) | 1 (5.6) | 2 (3.6) |
| 合計 | 38 (100.0) | 18 (100.0) | 56 (100.0) |

表12 ボールの空気

| ボールの空気 | 県内 | 県外 | 全体 |
|-----------|------------|------------|------------|
| 充分 | 14 (36.8) | 3 (16.7) | 17 (30.4) |
| 少ない | 2 (5.3) | 1 (5.5) | 3 (5.3) |
| わからない+無回答 | 22 (57.9) | 14 (77.8) | 36 (64.3) |
| 合計 | 38 (100.0) | 18 (100.0) | 56 (100.0) |

表13 テニスは楽しそうなスポーツだと思った

| 楽しそうなスポーツ | 全体 |
|-----------|------------|
| はい | 71 (78.9) |
| いいえ | 1 (1.1) |
| どちらでもない | 18 (20.0) |
| 合計 | 90 (100.0) |

表14 テニスは難しそうなスポーツだと思った

| 難しそうなスポーツ | 全体 |
|-----------|------------|
| はい | 77 (85.6) |
| いいえ | 2 (2.2) |
| どちらでもない | 11 (12.2) |
| 合計 | 90 (100.0) |

表15 ボールコントロールが思うようにできましたか

| ボールコントロール | 全体 |
|-----------|------------|
| できた | 1 (1.1) |
| まあまあ | 19 (21.6) |
| 普通 | 22 (25.0) |
| あまりできない | 32 (36.4) |
| まだできない | 14 (15.9) |
| 合計 | 88 (100.0) |

表16 大学の授業における技術指導の程度

| 技術指導の程度 | 全体 |
|-----------|------------|
| 丁寧だ | 24 (26.7) |
| ほぼ一通り | 5 (5.6) |
| この位が妥当 | 49 (54.4) |
| もう少し丁寧が良い | 9 (10.0) |
| もっと教えて欲しい | 3 (3.3) |
| 合計 | 90 (100.0) |

表17 授業における技術指導以外の満足度

| 満足度 | 全体 |
|------|------------|
| 満足 | 19 (21.6) |
| ほぼ満足 | 35 (39.8) |
| 普通 | 32 (36.3) |
| やや不満 | 2 (2.3) |
| 合計 | 88 (100.0) |

表18 授業における教官の説明の理解度

| 説明 | 全体 |
|----------|------------|
| わかりやすい | 19 (21.3) |
| ほぼ理解できた | 36 (40.5) |
| この位だろう | 24 (27.0) |
| ややわかりにくい | 9 (10.1) |
| わからなかった | 1 (1.1) |
| 合計 | 89 (100.0) |

表19 授業集団の雰囲気

| 雰囲気 | 全体 |
|------------|------------|
| 馴染みやすかった | 46 (51.1) |
| この位だろう | 40 (44.5) |
| あまり楽しくなかった | 4 (4.4) |
| 合計 | 90 (100.0) |

表20 技術到達レベルの自己評価

| 自己評価 | 全体 |
|------------|------------|
| 上達した | 2 (2.2) |
| 人並みに上達した | 57 (63.4) |
| あまり上達しなかった | 19 (21.1) |
| うまくなれなかった | 12 (13.3) |
| 合計 | 90 (100.0) |

表21 授業の全体評価

| 全体評価 | 全体 |
|----------|------------|
| 受講して良かった | 65 (72.2) |
| この位だろう | 24 (26.7) |
| 楽しくなかった | 0 (0.0) |
| 無回答 | 1 (1.1) |
| 合計 | 90 (100.0) |

テニスの授業に関するアンケート調査

高校までの授業（学校体育）でテニスを体験してきた人が著しく増加しています。あなたが高校までの学校体育でテニスとどのように関わってきたのか、さらに今体験している大学体育のテニスの授業をどう感じているのか、について教えて下さい。

設問 1. 大学入学以前にテニスを体験したことがありますか？（ある、ない）

設問 2. 設問 1 で「ある」と答えた人へ（「ない」と答えた人は、設問 3 へ進んで下さい）

(1) 体験したのはいつですか？その形態は？

- ①民間テニスクラブ [才の頃から 年くらい]
- ②中学 [硬式テニス、ソフトテニス] [授業、部活]
- ③高校 [硬式テニス、ソフトテニス] [授業（選択、必修）、部活]

(2) 高校までの学校体育について

- ①授業の際、体育教師からテニスの技術指導はどの程度受けましたか？
[かなり丁寧に、ざっと一通り、簡単な説明（グリップと素振り）程度、フリーに遊んでいた]
- ②最後はゲームを楽しむところまで自分の技術レベルが行ったと思いますか？
[はい十分に、ほぼ楽しめた、まあまあ、あまり楽しむまで行かない、楽しくなかった]
- ③授業終了後のコート整備（ブラシ掛け）はどうしていましたか？
[毎回やった、時々やった、やらなかった]
- ④用具は十分ありましたか？
ラケット [全員分あった、二人に 1 本程度、その他]
ボ ー ル [十分、やや少なかった、少ない]

設問 3. 大学における体育について全員に質問します。

①テニスというスポーツについて

- 楽しそうなスポーツだと思った [はい、いいえ、どちらでもない]
- 難しそうなスポーツだと思った [はい、いいえ、どちらでもない]
- ボールコントロールが思ったように [出来た、まあまあ、普通、あまり出来ない、まだ出来ない]

②授業の際、テニスの技術指導についてどのように感じましたか？

- [丁寧だ、ほぼ一通り、この位が妥当、もう少し丁寧がよい、もっと教えて欲しい]

③テニスの技術指導以外（Warming-up、講義的内容など）の要素についての満足度

- [満足、ほぼ満足、普通、やや不満、不満]

④前の質問で満足度が低かったと思う方にお聞きします。何を希望されますか？

[]

⑤授業の際、教師の説明について

- [わかりやすい、ほぼ理解できた、この位だろう、ややわかりにくい、わからなかった]

⑥前の質問でわかりにくかった方へ質問します。何がわかりにくかったですか？

- *例；使用する言葉がわからない

[]

⑦授業集団（全体、班）の雰囲気は

- [馴染みやすかった、この位だろう、あまり楽しくなかった、楽しくなかった]

⑧自分の技術到達レベルを判断すると

〔上達した、人並みの上達、あまり上達しなかった、上手くなれなかった〕

⑨授業全体の評価として

〔受講して良かった、この位だろう、楽しくなかった〕

設問4. 最後に伺います。高校までの学校体育と大学体育を受け、テニスの授業について感じたこと、良かったこと、改善点などについて何でも記して下さい。

* ご協力ありがとうございました。出身高校などについて教えてください。

出身高校と現在の学部〔 都道府県 高等学校〕〔 〕学部

出身高校のテニスコートの種類〔クレーコート、オムニサンドコート、ハードコート〕